



# 日本大学 三島同窓会夕報

第 21 号

平成 2 年 11 月 3 日  
静岡県三島市文教町 2  
日本大学三島同窓会発行

## 平成二年度 常任幹事会・幹事会開催

### ◎常任幹事会

平成二年六月二十九日（金）十八時から、母校八号館二階において開催され、幹事会、総会開催の件、会報発行、役員候補等の事項について審議された。

### ◎幹事会

平成二年六月二十九日（金）十九時から、母校八号館二階において開催された。

会は久保田勝氏の司会で進められ、中嶋信行会長の挨拶の後、議長団、書記が選出され、議長に渡辺勝一氏、副議長に白鳥義仁氏、書記に野田正人氏、小澤里佳子氏を選出し、次の事項が審議された。

### 議事

- 一、平成元年度事業報告
- 一、平成元年度決算報告
- 一、監査報告
- 一、平成二年度事業計画
- 一、平成二年度予算案
- 一、平成三年度役員候補の件
- 一、新会費の徴収について
- 一、維持会費について
- 一、各科活動状況報告
- 一、その他

事業報告、事業計画は角田義廣事務局長、予算、決算は土屋忠得会計担当常任幹事から説明、統いて監査報告を中島敏男会計監査からそれぞれ説明された。

統いて平成三年度役員候補の件について審議され、次期会長には宮沢主計副会長を、白鳥義仁、鈴木義樹、岩崎一雄の三氏を常任幹事に小林栄三常任幹事を幹事とすることでの幹事会案とした。

また新会費の徴収および維持会費についての状況報告が角田義廣事務局長からあり、各科活動状況報告は何もなく、その他の件での提案があり、了承された。幹事会に統いて懇親会が同会場にて盛大に行われた。



# 国際関係学部長就任にあたつて

国際関係学部長 秋山正幸



学部長室にて

この度、皆様の御支援を賜りまして、第三代国際関係学部長に就任することになりました。私は自分に付託されたこの職責の重大さを痛感するとともに、学園の発展のために全力を尽くす覚悟を新たにしております。

まず、前国際関係学部長の蔵並省自先生が二期六年にわたって、本学園の発展に多大の業績を残されたことに対し心から敬意を表す

とともに、今後とも御指導、御鞭撻を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

さて、御承知のように、現在地球は狭くなりました。環境問題を始めとし、私どもが直面する問題の多くは、一つの国の内部だけで解決することはできず、また多くの分野にまたがっております。地域的な紛争の影響は一地域にとどまらず、容易に全世界に及びます。国内問題が国際問題であり、国際問題が国内問題であるような時代、経済問題や政治問題が文化問題とも深く絡みあつてゐる時代、ひとつの情報が極めて短時間に世界の隅々まで行き渡る時代に私は生きております。今後ますます加速的に地球は狭くなつてゆくでしょう。そして来たるべき二十一世紀は人類が生き残れるかどうか、その英知を試される時代となるでしょう。

このような時代の要請に応えるべく、我が国の先頭をきつて誕生したわが国際関係学部も昨年十周

確立のためには、「日本大学国際関係学会」の設立を提唱したいと思ひます。文学科・文科・商経学科・商経学のなかで最大規模の短期大学部であり、また歴史的にみると、三島キャンパスでは国際関係学部の年を迎えた。その間他の大学において特色のある勝れた多くの国際関係学部あるいは国際関係学科が生れています。このことは一面において、従来の専攻による学問分野（ディシプリン）のみによらず、個別学科間の交渉領域、すなわち学際領域の研究や複合領域の研究を教育・研究の軸とする。わが国際関係学部にとって、まさに心強い仲間ができたということがあります。私どもは過去の成果に安住することなく、初心に立ち返つて、衆知を結集し、新たな発展に向けて前進しなければなりません。

大学院国際関係研究所、国際関係研究所ならびに生活科学研究所は学問研究においてはもちろん、学園の教育・研究の基礎理念の形成においても、主導的な役割を果たすことが期待されます。より高い研究水準を保持し、学部の主体性を確立するためには、大学院博士過程の設置を検討することも必

要であります。また国際関係学の質の高さであると思います。この学生数の激減期の始まりと時を同じくして、大学審議会では、大学設置基準の見直しにまで踏み込んだ大学教育改善の方策が打ち出されようとしておりますが、その大學が、それぞれの理念・目的に基づき、自由かつ多様な形で教育を実施できるようになります。従つて各大学は、自己の責任において独自の教育を行う自由を得ると同時に、また絶えざる自己革新と自己評価の責任を負うことになるでしょう。教育の自己化の時代は、申し上げるまでもなく、大学の選択淘汰の時代であり、質の高い、特色のある教育・研究を持たない大学は、その存在理由を問われる時代であります。

以上に述べました認識に立つて、私はここに、学園運営の基本方針を明らかにし、皆様の御賛同と御協力を仰ぎたいと思います。

一、全教職員が希望と喜びをもつて職務に励むことのできる、

生徒数の激減の時代を迎えています。数年前から、レベル・アップのための方策が検討され、実行に移されておりますが、これを三島

リ、すべての変革のエネルギーの結集を目指します。

二、学園組織および教育・研究施設の総点検を行い、教育・研究環境の均衡ある整備充実を計ります。

三、国際化時代の要請に応え、付属高校から大学院にいたるまで、三島学園を国際感覚豊かな逞しい人材を養成することを目標します。

第一の方針を実行に移すために、学部長と各種委員会、教職員と自由な意思疎通を計るために、想談日を設定します。学部長は様々な異なる意見に直接接することにより、学園の状況をより正確に把握することができます。ひいては各種委員会の活動がさらに活性化されるものと考えます。また学生と懇談することができ、ひいては各種委員会もできるだけ多く持ちたいと思います。

第二の方針を実行する施策としては、まず、従来の広報委員会を企画広報委員会に改め、各種委員会の在り方の再検討と調整、教學に関する企画立案に当たつては、さるに大学院、国際関係学部および短期大学部のカリキュラム検討委員会を振興対策委員会に改め、カリキュラムの改訂だけでなく、全般的に特色を發揮しながら、互いに機的・調和的な構成を持ち、全体として発展していくためにはどうすればよいかという問題に取組んでいたことにしました。さきに述べましたような教育自由化の時代において、特色あるカリキ

ュラムの構成は極めて重要な要件であり、早急に答申をいたしました。一方、私立大学の宿命として、いかなる教学の理想を実現するためにも、まず健全な財政基盤の確立とそのための経営努力が必要あります。このためには、臨時定員増の恒久化、新学科設立を含む学園組織の再編成等、経営的自立の問題を解決することは最優先課題であり、振興対策委員会において、実現可能な方策を検討し、提案していただきたいと考えます。

その他、入学者選抜方法の多様化・個性化の検討、学部独自の海外協定校の選定と教員・学生・生徒の相互交換制度の確立、外国人教師や外国人留学生の受け入れ体制の整備、国際交流会館の設立、市民公開講座の拡充と強化、情報化時代にふさわしい新図書館と研究棟の建設、学生食堂の改善と拡充、新体育館の建設等、検討すべき問題は山積しておりますが、各委員会で十分な検討をしていただき、全体の均衡を考慮しつつ、できる限り一つずつ解決してゆく所存です。

第三の方針実行の第一歩として、語学センター準備委員会と情報科研究委員会を新設しました。語学センターは外国語教育・日本語教育・日本語教員養成の中核となる組織として、早急にその実現を計る必要がありますし、また情報

科学研究委員会は、情報科学研究であり、教育の諸問題の研究を通じて、わが学園が情報化時代に適切に対応できるよう先導的な役割を担うべきであり、それらの成果は国際関係学部、短期大学部、付属高校の別なく、これをひろく分かち合うべきであると考えます。また付

属三島高校に国際コースを設置することも検討に値すると考えます。最後にもう一言述べさせていただきます。日本の教育は、画一的であるといわれております。画一的教育は、歴史のある局面においては、極めて効率よく機能し、均質で比較的高い教育水準を保つことによって、わが国の発展に役立つてまいりました。しかし、国際化が急速にすすんできた現在、それはまた日本の教育の欠点ともなっております。多様な価値観、生活様式、行動様式、思考方法を認め、それぞれの学生が自主的に創造的に自らの問題を解決できる能力を身につけるように仕向けることこそ、新しい教育のあるべき方向であると信じます。

私は学園の教育・研究の発展のために微力を尽くす覚悟でござりますので、皆様の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げまして、就任の挨拶とさせていただきます。(平成二・一〇・一記)

## 新学部長 祝賀会について

秋山正幸新学部長就任の祝賀会が、国際関係学部教授の先生方を中心とする発起人会により開催されることになりました。

### 記



期 日 平成2年11月15日(木)  
会 場 三島プラザホテル  
会員の皆さんはとより、三島同窓会員にとつても、誇らしいこと

養一期の同窓会員であり、同期の会員の皆さんはとより、三島同窓会員にとつても、誇らしいこと

あります。同窓会員に対するご案内は、学部内を中心とする、と

いうような事情から、役員会の一部をもつて代表するということになつたようですが、会員諸氏のお気持ちは、学部長には充分伝えていただけることと存じます。

第40回学部祭は、「ちりを積もらせ富士となせ」をテーマに、大學生の初年度を飾るにふさわしい内容にしたいと、後輩諸君が張り切つております。今年の学部祭実行委員は、総勢一五四名、委員長の国際関係学部三年前田智也君を核につくりあげた成果は、今日から三日間にわたって行われます。

十一月四日(日) 十一月五日(月) 十一月五日(月)

大講堂前 大講堂前 大講堂前

野外ステージ 野外ステージ 野外ステージ

大講堂 大講堂 大講堂

グラウンド グラウンド グラウンド

大講堂 大講堂 大講堂

開会式 閉会式 閉会式

九時〇〇分 九時〇〇分 九時〇〇分

九時三〇分 九時三〇分 九時三〇分

九



## 平成 2 年度 事 業 計 画

### 1. 三島同窓会長賞授与（副賞：記念品もしくは奨学金）

日本大学国際関係学部および短期大学部を、平成 3 年 3 月に進級・卒業予定の者を対象とする。

国際関係学部……………各学科 3・4 年生 各 1 名宛 賞状および奨学金

短期大学部……………各科 1・2 年生 各 1 名宛 賞状および記念品もしくは奨学金

### 1. 学園歌集発行予定

2,500 部を発行し、平成 3 年 4 月国際関係学部・短期大学部各科および法学部三島校舎の新入生全員に対し、入学祝いとして渡す。

### 1. 会報発行予定

会報21号（平成 2 年 10 月）発行 8 頁 3,000 部

会報22号（平成 3 年 3 月）発行 8 頁 3,000 部

### 1. 各科同窓会等補助

(1) 各科の名簿編集の推進。

(2) 体育奨励会に対する補助。

### 1. 三島同窓会終身会費の件

### 1. 三島同窓会維持会費の件

### 1. 三島開設 50 周年記念に係る事業

### 1. 常任幹事会

平成 2 年 6 月 29 日(金)18 時から日本大学国際関係学部 8 号館 2 階において開催する。

### 1. 幹事会

平成 2 年 6 月 29 日(金)19 時から日本大学国際関係学部 8 号館 2 階において開催する。

### 1. 総会並びに懇親会

平成 2 年 11 月 3 日(土)16 時から日本大学国際関係学部記念館において開催する。

## 平成 2 年度 収 支 予 算 書

(平成 2 年 4 月 1 日～平成 3 年 3 月 31 日)

(単位: 円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減(△)	項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減(△)
奨 学 費	170,000	160,000	10,000	会 費 収 入	1,335,000	1,327,000	8,000
学 園 歌 集 発 行 費	210,000	210,000	0	雑 収 入	785,577	602,570	183,007
同 窓 会 報 発 行 費	250,000	250,000	0	前 受 金 収 入	900,000	900,000	0
各 科 同 窓 会 等 補 助	730,000	1,060,000	△ 330,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	450,000	450,000	0				
会 議 会 合 費	300,000	350,000	△ 50,000				
通 信 運 搬 費	50,000	70,000	△ 20,000				
事 務 費	120,000	150,000	△ 30,000				
雜 費	300,000	300,000	0				
予 備 費	500,000	200,000	300,000				
計	3,080,000	3,200,000	△ 120,000	計	3,020,577	2,829,570	191,007
基 金 繼 入 額	0	0	0	基 金 繼 出 額	900,000	1,200,000	△ 300,000
次 年 度 繰 越 金	900,000	900,000	0	前 年 度 繰 越 金	59,423	70,430	△ 11,007
前 受 金	900,000	900,000	0				
繰 越 金	0	0	0				
合 計	3,980,000	4,100,000	△ 120,000	合 計	3,980,000	4,100,000	△ 120,000

# 湯桜寮の頃

就職指導担当 青木久尚

水のきれいな三島市に移り住んでから、もう三十八年の歳月が流れ去つた。

昭和二十七年の春、駿豆線の伊

豆長岡駅に降り立った私を歓迎してくれたのは、チュンチュンとさ

えずる駅頭の雀と、あたり一面を

黄色く染めた菜の花の、なんとも云えぬほのかな香りであった。これが私と伊豆との最初の出会いで、住むほどに伊豆の温暖な気候と、牧歌的な田方平野の情景に、私はますます魅了されるようになった。

私は当初、伊豆長岡駅の裏手に

あつた木造二階建ての湯桜寮とい

う学生寮に、寮監として住み込むことになった。この寮は、今春物故された三浦吉春前図書館事務課長のご尽力もあり、「田方蚕糸」という蚕の卵を取り扱う組合の建物のひと棟を、日大の学生さんのためにと特に開放されたと聞き及んでいる。その建物も、狩野川台風によつて跡形もなく流失し、今はその面影さえもとどめていない。

この寮には、三島教養部に学ぶ文系、理工系、医進コースの一・二年の学生諸君が三十数名入つてゐた。出身地は、北海道から九州の各県にまたがり、方言を丸出しにした寮生活には楽しい語らいがあつた。私は大学を卒業してまだ日も浅く、青春時代の一時期をこの寮で過ごすことになつたが、春

秋に富むこれらの寮生とともに過ごした日々は、私にとって忘れられない思い出の一頁となつた。

＊＊＊  
世話をてくれた金時茶屋のおばさんのことを懐かしがつて帰るという。

私は今まで多くの学生諸君と接し、喜怒哀楽とともにしてきた多感な青春時代を送るのも悪くはない。

＊＊＊  
私は今まで多くの学生諸君と一緒に、おぼつかない足取りで寮に帰ることもあつた。そのよう

べそこなう事がある。食べるとき

ちになることは至めない。  
しかしながら、伊豆の牧歌的な自然環境は、人の心を育み、伊豆の大好きな建物となつてゐた。ご主人の話によると、教養部時代、湯桜寮で生活したかつての寮生達が、「伊豆に来たから」と云つて反射炉を訪れ、親身になつて寮生を

つづける。食事中でも学生は、「トントン」と窓を叩き、「先生」  
と呼んでくる。呼び出しをかけている学生だつたら、チャンスを逃がす訳にはいかない。

午後、本来なら睡魔におそれ

るはずの時間だが、戦いはより一

かづつ私が生活した湯桜寮での

学生諸君との出会いは、多くのこ

とを若年の私に教えてくれた。当

時、私は学生時代からの延長で酒

をたしなむことが多かつた。三島

や沼津で同僚の先生方と盃を傾け、

ときには、おぼつかない足取りで

寮に帰ることもあつた。そのよう

な時、二、三名の学生が私の部屋

をのぞき、床を敷き寝させてくれ

ることもあつた。そのような時、

学生が部屋に戻つてから、私はひ

とり手を合わせ、学生に感謝した。

お互いに助け合う心の大切さを知らされたのもこの時である。

かつての大学予科や、教養部時

代は、心を許せる良き友を得、真

剣に将来を語り合うことのできる

ふれ、友の厚意に感謝しながら、

時代であつた。また、温かい心に

将来へのビジョンを構築していく

楽しい時代でもあつた。

寮で寝食をともにした寮生の諸君は、今、社会の第一線で活躍している者が多い。

先日、久し振りに、山の反射炉

## 家政専攻研究室の一 日

実習助手 片村則子

「先生つ、おはようつ」学生の高らかな声で一日が始まる。八時半頃には実習準備の為、学生がちらほらと顔を出す。

ここは、十一号館二階、家政専攻の準備室である。私はこここの二十八期生で、卒業と同時に実習助手として採用された。このメンバーは、他大学家政科卒業の副手

二名と母校家政専攻卒業の技手補二名の計四名で組織されている。

一・二年合わせて二百名弱の学生達の実習授業を補助し、毎日バタバタと走り回つてゐる。アットホーム的なムードに包まれた家政専攻は、先生、助手、学生が親密で一体化しているのが特色である。

〇年〇組〇番、〇×△□、〇×出

身、どんな個性を有しているのか、

コンピューターの様にはじき出す事が出来るのも、そんな特色からであろう。

九時。一斉に学生達が飛び込んてくる。大荷物を抱えた学生達の

足音は、まるで地鳴りの様である。

そんな足音もF1レースの様に、一瞬にして消え去り、静けさがもどつてくる。

九時半。『春の海』(三島市の広報メロディー)のうららかな琴の音と共に、遅刻者が忍び足でやつてくる。どの様に隠れても、窓に影が写つてゐるというのに……。

午前中、実習で過ぎる日もあれど、研究室事務、標本作成等で過

がる日もある。

『お昼休み』と云う氣の利いた時間はなく、今だ!!と思つた瞬

ふと気がつくと、四時半の三島市の広報が放送されている。JR新幹線の往来がとてもさみしい。

人けのない静まり返つた実習室。

ひんやりとした空気に鍵前の音とややひきずつたよくなヒールの音が鳴り響く。

五時過ぎ。どかつとイスに腰を

おろし、一日を振りかえる。ペン

のすべての音、電気の音、書類整理の音。どれもが一日の終わりを知らせる信号の様である。

「お疲れさま!」蒲團恋しさに家路に急ぐ。

「明日、又さわやかな笑顔で始まるといな。」そう考えながら毎日を過ごしている。反省した事が改善されて実行出来た時、素晴らしい一日だったと満足できる。

間に弁当を開いていないと、食べると云つても、いかに早く胃の中に入物を押し込むかと云う具合で味どころではない。食事中でも学生は、「トントン」と窓を叩き、「先生」  
と呼んでくる。呼び出しをかけている学生だつたら、チャンスを逃がす訳にはいかない。

午後、本来なら睡魔におそれ

るはずの時間だが、戦いはより一

かづつ私が生活した湯桜寮での

学生諸君との出会いは、多くのこ

とを若年の私に教えてくれた。当

時、私は学生時代からの延長で酒

をたしなむことが多かつた。三島

や沼津で同僚の先生方と盃を傾け、

ときには、おぼつかない足取りで

寮に帰ることもあつた。そのよう

な時、二、三名の学生が私の部屋

をのぞき、床を敷き寝させてくれ

ることもあつた。そのような時、

学生が部屋に戻つてから、私はひ

とり手を合わせ、学生に感謝した。

お互いに助け合う心の大切さを知らされたのもこの時である。

かつての大学予科や、教養部時

代は、心を許せる良き友を得、真

剣に将来を語り合うことのできる

ふれ、友の厚意に感謝しながら、

時代であつた。また、温かい心に

将来へのビジョンを構築していく

楽しい時代でもあつた。

寮で寝食をともにした寮生の諸君は、今、社会の第一線で活躍している者が多い。

先日、久し振りに、山の反射炉